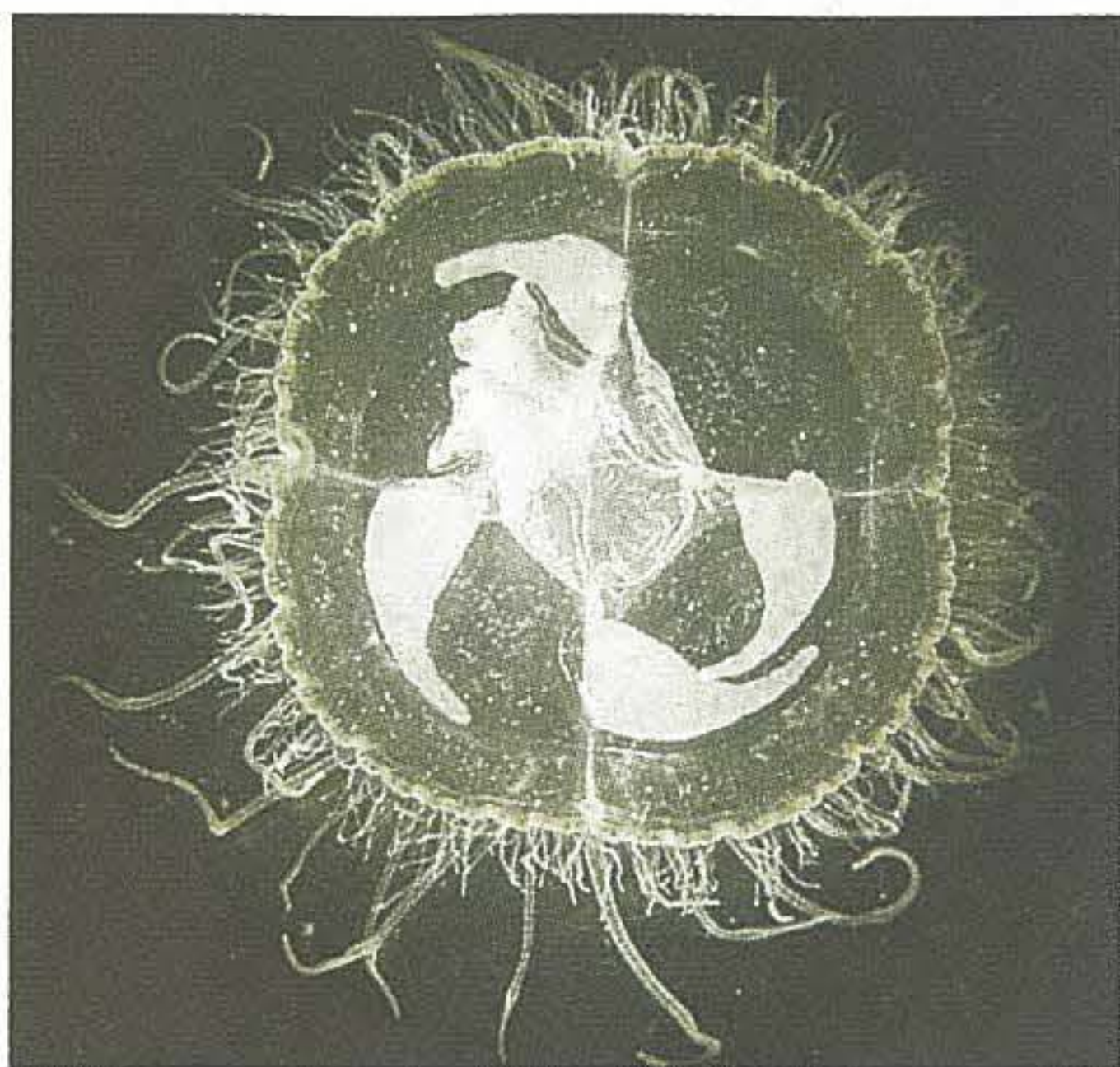




久保田 信

番外編

マミズクラゲ



△
みなべ町芝のため
池で採集したマミ
ズクラゲの成熟雌

マミズクラゲは日本全国から記録されている淡水クラゲだが、神出鬼没なのが特徴である。白浜町や田辺市、みなべ町でも発見されており、みなべ町については古くから知られている。3カ所の池で1

966年から記録があり、2007年8月には、同町芝のため池(五反池)で、群泳しているのが釣り人によって発見された。そこで07年9月に61個体を採集し精査した。

まず性別を調べた。田辺市や白浜町と同じように、一つの池ではどちらか片方の性しか存在しないという定説通りすべて雌だった。これらはクローンなのだ。つまりみんなコピーということになる。この池では待てど暮らせど来ぬ片割れなので、子孫は残せずに死んでしまう。

61個体すべて成熟しており、その半数は傘径が15・2ミリだった。大半の個体には4個の生殖巣が同じようにあった。無

色扁平(へんぺい)で細長く先細りの形態を示していた。しかし、長楕円(だえん)形や楕円形までかなりの変異個体も見られた。

先細りの生殖巣を持つ7個体は、小袋状の生殖巣が本来のものの脇に付加されており、1個の生殖巣だけ、あるいはすべての生殖巣の基部に見られるものまであった。

次に最大個体で触手数と感覚器数を測定した。みなべの最大個体(傘径16・7ミリ)は、触手が複数の束にまとまった長短合わせて全部で445本、感覚器は203個あった。

(京都大学准教授)